

防コミの歩き方



東灘市民放水大会 ～あの日の大火を、この力強い放水で消したい…～



東灘区では、阪神・淡路大震災で犠牲になられた方々に追悼の意を表すとともに、その経験と教訓を継承することを目的として「東灘市民放水大会」を実施しています。

この大会は、区内13地区の防災福祉コミュニティを中心に、地域団体や事業所など多くの団体が参加します。区民の憩いの場である住吉川に1000人以上が一堂に集い、一斉に放水する光景は圧巻であり感動的です。

阪神・淡路大震災では、発生直後に市内58カ所で火災が発生し、当日24時までには110件に達し、消防隊だけではとても手が回りませんでした。

(あの日、この放水ができれば…)

そのような思いで、この場に臨んでいる方々もいらっしやるのだろうか、という思いが頭をかすめました。

●消火方法の選択肢を増やそう

大地震直後は初期対応が大切です。発生した火災を消さないと広がり続け、救助や救護活動もできなくなります。被害の拡大

を防ぐために地域の方々の協力が必要です。

現在、防災福祉コミュニティでは、主に3種類の消火訓練がおこなわれています。消火器は、最も身近で初期消火に有効です。小型動力ポンプは、防火水槽や河川等から取水し大量放水できます。日頃の操作訓練とメンテナンスが重要です。バケツリレーでは、運んだ水をどうやって炎に届かせるのか、阪神・淡路大震災で中学生が考え出したビニール袋消火ボールが参考になります。

その他にも、屋内消火栓が設置された建物では、その使い方の周知が大切です。また、消火用ボックスがある地域では、水道管に破損がなければ消火栓から放水可能です。関東地方では、市民が消火栓からスタンドパイプを使って放水する訓練を積極的におこなっています。

消火活動も救助活動も救護活動も、一人ではできません。備えは物だけでなく、気持ちや行動の部分も大切です。助け合える地域づくりをおこなっていきましょう。

(東灘消防署地域防災調整者 樋口貴洋)